

2017年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2017年度に開講した主な科目について述べる。

- ① 必修科目（演習系）：1年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」、2年次対象の「グローバル地域文化入門セミナー」、3年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」を開講した。また4年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆の個別指導を行った。その結果、ヨーロッパコースでは73名、アジア・太平洋コースでは54名、アメリカコースでは61名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された。
- ② 必修科目（講義系）：1年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を、2年次対象として「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」を開講した。2年次対象の科目は3コースそれぞれにクラスを設け、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げると共に、学生の発表を取り入れるなどして学生の積極的な取り組みを促した。
- ③ 選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」を開講し、本年度は夏に米国のロサンゼルス（10名）、カナダのトロント（4名）、カナダのモントリオール（2名）、オーストラリアのメルボルン（4名）、中国の上海（5名）に学生を派遣した。帰国後、学生たちによる研修成果報告発表会を公開で行なった。また2016年度から開講した「海外語学プログラム（英語）」では9名の学生が、ウェスタン・ミシガン大学にて1 Semesterにわたる研修を受け、事後授業では英語による成果発表を行った。
- ④ 選択必修科目（講義系）：留学経験を将来のキャリアに生かすため、留学経験を踏まえてグローバル人材となるための資質について考え、議論し、キャリア計画を立てることを支援する科目である「留学とキャリア形成」を新設し、19名の学生が履修した。
- ⑤ 選択科目：コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。
- ⑥ その他：海外留学をする学生が計画的に卒業単位を取得できるよう、1 Semesterの登録最高単位数を増やした。

II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2018年1月に1年次生（2017年度生）と3年次生（2015年度生）に対して学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。その結果、学部教育への満足度が高い一方で、講義科目や外国語科目をさらに充実させる必要等が明らかになった。このようなアンケート調査で得られた結果を反映する形で、カリキ

ユラムの改善が行われ、2018年度より実施される予定である。

FD活動費の支援を受けて、2017年11月24日（金）に、劇作家の平田オリザ氏を招き、「コミュニケーション・ワークショップ」を行い、演劇指導を応用したコミュニケーションの方法を学んだ。発話のきっかけ作り、発話者としての思考の整理、発話による意思伝達の重要性を再認識することで、問題解決型授業を活性化させる方法や、深く積極的な学びを導く方法について多くの示唆を得た。参加者は12名であった。

父母懇談会は、2017年11月11日（土）に行った。参加者数146名（112組）、個別面談31組であった。学部学生の学習状況に関して意見交換をした。父母からいただいた貴重なご意見は、今後の学部運営に活かしたい。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年2回、研究機関誌『GR』（論文、翻訳、書評、書誌、各種の批評と紹介、会員の活動報告など）を発行した。2017年10月に第9号、2018年3月に第10号が刊行された。

2017年11月15日（水）にはグローバル地域文化学会第5回学術講演会「ロシア革命の意義をどのように語るのか」（講師：石井規衛氏（東京大学名誉教授・立教大学特任教授））を主催し、幅広い年齢層の学内外からの参加者をえて活発な質疑応答が行われた。また、教員の研究活動の充実と学生会員への教育を兼ねて小規模講演会開催補助制度を設けているが、この制度を活用した小規模講演会として、2017年7月25日（火）に「移民問題とヨーロッパ・デモクラシーの危機？——イギリスのEU離脱とフランス大統領選を通して考える」（講師：宮島喬氏（御茶ノ水女子大学名誉教授））を、2017年9月22日（金）に「戦争と感情——名誉、恥、犠牲への歎び」（講師：ウーテ・フレーテフェルト氏（マックス・プランク研究所人間発達研究部門代表））を開催した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。

(URL:<https://kenkyudb.doshisha.ac.jp>)

IV. 国際交流活動

学部独自でセメスター・プログラム、海外インターンシップ、グローバルキャリア講演会、語学検定試験支援（受験料半額補助）、IELTS受験対策講座を、学生の留学、語学力向上、国際的ビジネスへの就職のための支援の一環として実施した。

延世大学校人文芸術大学国語国文学科と本学部との学生交換協定により、本学部生4名を派遣し、また先方から2名を受け入れた。

海外からの研究員などを受け入れた。ヨーク大学（トロント市）よりモナ・オイカワ氏（2017年4月3日～5月3日）、ハワイ大学マノア校より客員研究員木村あや氏（2017年5月22日～7月31日）、アーモスト大学アーモスト・同志社フェローとしてリヴァイ・リ

一氏（2017年9月1日～2018年8月31日）、を受け入れた。

その他に、教育活動における国際交流として以下が実施された。2017年7月にNPO法人ワールドユースジャパンからの依頼により、スペインの高校生4人をスペイン語のインテンシヴクラスに迎え、交流会を行った。2017年5月および2018年1月に東カロライナ大学と本学のイングリッシュ・プラクティクムのクラスの国際交流会議を行った。日本人の中国語学習者と中国語圏からの留学生が日本語・中国語の相互学習をするため、学生が大学内で自主的に「日中会話クラブ」というサークル組織を作っているが、担当クラスをはじめとする中国語学習者への活動の周知、学習場所の提供、組織運営への協力などを行っている。2017年10月14日にカリフォルニア大学ロサンゼルス校アジア系アメリカ研究プログラム教授David K. Yoo氏による「Reflections on the Historical Study of Asians in the United States」と題された公開講演を実施した。また、11月13日には、ロサンゼルスで活動するアフリカ系アメリカ人映像制作者Tarabu Betserai Kirkland氏、および日系人パフォーマンス・アーティストのノブコ・ミヤモト氏による「Making of “100 Years in Mississippi” and Creating a Multi-Ethnic Bon-Odori」と題された公開講演を実施した。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあつた。

向正樹准教授の発案と企画による「グローバル地域文化導入セミナー特別授業：ランチ会&ワークショップ「奥本京子先生と平和学について語る」」（6月1日）。尹慧瑛准教授：「グローバル地域文化入門」の一回の授業時に、移民研究の第一人者である宮島喬先生を招いてゲスト講義を実施した。また、同日に「ミニ講演会」を開催し、学内外からの参加者とともに研究交流を行った（7月25日）。西納春雄教授：高円宮杯全日本中学校英語弁論大会京都府大会主席審査員（9月17日）。Felicity Greenland准教授：第4回同志社英語プレゼンテーション大会立石杯に審査員として参加（9月18日）。Irish Night in Tango（主催ALL Tango）に出演（11月4日）。第11回京都外国語大学森田杯・英文毎日新聞杯「ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト」に審判として参加（12月17日）。京都国際ウクレレクラブにファシリテーターとして参加。NHK BSプレミアム「京都人の密かな愉しみ——月夜の告白」においてAttor's voice coach（英語指導）を勤めた。Esta Tina Ottman准教授：アラブの民主化暴動についての映画について講演（1月18日）。大阪大学で招待講演「Post-Zionism, a personal journey」（7月7日）。ルワンダのジェノサイド・トラウマについて講演し、ドキュメンタリー*The Uncondemned*を上映（11月22日）。

王柳蘭准教授：泉北高等学校への模擬授業（5月26日）。Andrés Pérez Riobo助教：金光八尾高等学校への模擬授業（7月11日）。Aysun Uyar准教授：春日丘高等学校への模擬授業（6月14日）。小野文生准教授：長浜北高等学校への模擬授業（11月13日）。物部ひろみ准教授：西宮市立西宮高等学校への模擬授業（12月5日）。源馬英人教授：草津東高等学校への模擬授業（12月20日）。

VI. 学生支援活動

①学習支援：外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続き IELTS の集中対策講座・検定試験の団体受験を実施し、留学を卒業要件とする本学部の学生に向けて、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援：「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計 7 回開催した。第 6 回目は、計 37 名の本学部 1・2 期生に就職活動の体験談を語ってもらい、3～5 期生との交流の機会を設けた。

第 1 回 高橋 早咲氏（JTB 西日本京都支店）「旅行業界で働くとは——グローバルに広がる旅行業界の仕事」（5 月 23 日）

第 2 回 白水 健一氏（国際協力機構）「開発途上国の課題解決——国創りという仕事」（6 月 23 日）

第 3 回 高塚 大然氏（アクセンチュア）「グローバル経済のパラダイムシフト——これからの企業に求められる力とは」（7 月 11 日）

第 4 回 Regine Dieth 氏（本学部教員）「在日ドイツ企業が求めている人材」（10 月 17 日）

第 5 回 中村 みゆき氏（日本ユニシス）「東南アジアで事業を創る——グローバルに働くためのスキル」（11 月 21 日）

第 6 回 金 鋭氏（パーソルホールディングス／あしたのチーム海外事業／明日之団(上海) 人力资源管理）「今求められているグローバル人材とは？」（12 月 19 日）

第 7 回 本学部学生（2013・14 年度生）「先輩に聞いてみよう！GR 学部生の就活体験談」（1 月 16 日）

以上